

数学

数学科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、数学と実社会との関連についての理解を深める。	数量や図形の性質を見出し発展的に考察し、数学的な表現を用いて事象を簡潔、明瞭、的確に表現する力を身に付ける。

生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）	
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・九九を正確に言えない生徒が若干名いる。ア ・正負の数の加減乗除の計算の理解が不足な生徒がいる。ア ・文字式の読み取りができない生徒が多い。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業冒頭で5分間ドリルを行い、既習事項の確認を行う。ア ・文字式を読み取り、何を表しているか考える機会を「方程式」等の単元を通して設ける。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・通年 ・6～11月 	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・計算ミスが多くみられる。ア ・文章から必要な情報を取り出したり、自分の考えを簡潔に文章にまとめたり発言したりする力が不十分である。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業冒頭で5分間ドリルを行い、実施した内容を範囲にして15回分ごとに小テストを実施する。ア ・文章題に触れる機会を増やし、考えたことを箇条書きでまとめたり、表現したりする機会を設ける。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・通年 ・6～11月 	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・計算演習は積み重ねてきたが、思考力を問う問題には苦手意識がある。また、自分の意見を他者に伝えることに自信のない生徒が多い。イ ・既習事項について、計算方法などは定着しているが、考え方については課題がある。イ ・関数についての考え方が不十分である。ア 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業冒頭で5分間ドリルを行い、実施した内容を範囲にして小テストを実施することで基礎知識をおさえ、自信をもたせていく。ア ・「2次方程式の利用」で文字式を読み取り、何を表しているか考えさせる機会を設ける。イ ・相似では、合同条件などを復習し証明問題などの書き方を再確認して進める。ア 	<ul style="list-style-type: none"> ・通年 ・9月 ・10～11月 	

<p>■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等ICTの効果的な活用について</p> <p>1年 デジタル教科書を活用し、操作活動における考え等を共有する。</p> <p>2年 Google Classroom を活用し、生徒が自主的に取り組める課題を提供する。</p> <p>3年 ロイロノートを活用し、生徒の解き方や考えを共有する。</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <p>1年 単元の初めに見通しをもたせ、単元の終わりに振り返りシートを記入させる。</p> <p>2年 単元の初めに見通しをもたせ、単元の終わりに振り返りシートを記入させる。</p> <p>3年 単元の初めに見通しをもたせ、単元ごとにレポートと振り返りシートを活用する。</p>
---	---

